

しらかべ

2021年12月13日 人権・同和教育部発行



コロナ禍での開催に大きな議論を巻き起こした東京オリンピック・パラリンピックが1年延期の今夏、実施されました。今回のオリンピックでは、海外メディアを中心に大きな注目を集めた話題があります。それは自らがLGBT（性的マイノリティ）であると表明した選手の増加です。メダルを獲得した選手がインタビューの中でカミングアウトしたり、苦しかった幼少期の経験を語ったりしました。また五輪史上初めて、トランスジェンダーの選手（重量挙げ女子87kg級ニュージーランド代表のローレル・ハッパード選手）が、生まれた性別とは別の性別カテゴリーで出場しました。この選手の出場については運動能力の観点から開催前より批判や議論があったとのことですが、ご本人は競技の後に「私はずっと、ただ“私自身”でいたかっただけなんです。今回、その機会がもらえたことがとてもうれしい」と語りました。

さて社会の中では、男性と女性、男と女、男子と女子、というように人を性で二分して考えることがあたりまえに行われてきました。そして、男性には「男らしさ」、女性には「女らしさ」を求め、それらが備えられない人を未成熟であると考えたり、時には奇異の目で見たりするようないことが行われてきました。しかし性はグラデーションのような面があり、社会が人々に男らしさや女らしさを求めようとする中で、男、女のどちらにもあてはまらないのではと感じている人たちや、自分自身が「らしさ」に欠ける部分があると感じている人たちには、社会はとても生きにくいものになってしまいます。前述の性的マイノリティの人たちはそのような場面でこれまで苦しんできたと思います。我々教員も、学校の中で生徒たちを「男子と女子」というように分けて考え、「男子は…」「女子は…」と語ることがしばしばあります。しかしそれらを振り返ってみると、分けて考えなくてはいけな場面がある一方で、果たして分けて語る必要があるのだろうかと思われる場面があったりもします。ことさらに性別で分けて語ろうとすることが、どちらかにあてはまるものだとする考え方を無意識に植え付けてしまっているかもしれません。性別について社会で共有される意識によって、一人ひとりの「自分らしさ」を不自由なものにさせないようにしなければならぬと考えます。

今号では、夏休み以降に実施した人権関連行事と人権・同和教育ホームルームの様子を紹介いたします。

★訪問学習会 1年生 県立盲学校 2年生 香川人権研究所 3年生 結婚差別聞き取り学習会

昨年度はコロナ感染拡大のために3年生しか実施できなかった、夏休みの各学年HR委員による現地訪問学習会を、今年は一歩行き先を変えて全学年実施することができました。3年生は坂出市人権啓発研修所において結婚差別聞き取り学習会を、2年生は丸亀市にある香川人権研究所で行いました。1年生が訪問した盲学校では、体験プログラムが用意され、たくさんの盲学校の先生方のご指導いただきました。今回、①ロービジョン（弱視）体験 ②視覚障がい生徒の学習支援 ③視覚障がいのある教員による講話 の3つのプログラムを3つのグループに分けて廻りました。この中で学んだことについて、参加したHR委員がまとめたものを南館4階中階段付近に展示しています。



iPadを使った学習支援についてのお話(盲学校)

◀1年生 HR 委員の感想より▶ ◆学習支援について学んだことは、私たちが使っているスマホにも視覚障がい者への工夫がされていることです。iPadではズームができたり、音声読み上げをしてくれたり、色を反転して見易くすることができることを知りました。◆今回の学習を通して、私は目が見えることは決して「あたりまえ」なんかじゃないと気づきました。◆学習会の最後に「バリアフリー」は障がいのある人だけでなく誰もが使いやすいものだと言われていましたが、iPadの機能や（何かを指し示す際に）「こそあど」言葉を使わない具体的な言い方は、きっと誰にとってもよいものだと思います。

★ 1年生LHR 「ハンセン病回復者の人権課題」★

今学期は「ハンセン病回復者の人権課題」をテーマに取り組みました。例年は1学期にハンセン病の概要や歴史を学び、夏休みにホームルーム運営委員（HR委員）が大島青松園への現地研修に訪れています。そして実際に見聞して学習したことや、肌で感じた空気感を2学期のLHRでクラスに伝えていました。昨年に引き続き、今年も現地への訪問がかなわず、運営委員は以前、訪問した際の映像資料で事前学習を行い、LHRを行いました。昨今の状況においてハンセン病と新型コロナウイルス感染症を重ね合わせて考えざるを得ません。ハンセン病をとりまく差別を学ぶ中で、現在の私たちが考えるべきことややるべきこと、そしてやってはいけないことをしっかり考える機会となりました。



《生徒の感想より》 ◆差別が起こる原因を私は「無知」と「偏見」であると考えました。「知ろうとする」態度が大切だと思いました。◆コロナ感染者に対する差別と同じように完治した後もいわれのない差別や偏見に苦しむ人がいることを改めて実感し、決して現代の私たちに関係のないことではないと思った。◆差別について、一番の差別は関心がないこと。自分が無意識のまま差別してしまうことがないように、様々な視点から物事を見るようにしたい。◆人間は関わりたくないものを「自分とは違う」と拒絶し恐れてしまいましたが、自分の価値観だけで世界を見るのではなく、視野を広げ、理解しようと努力することが大切だと思った。

★ 2年生LHR 「部落の歴史Ⅰ ～部落の起源から水平社の設立～」★

「同和問題の歴史を学び、人権・同和教育の本質を考える」を大きなテーマに1学期に引き続き、同和問題の学習に取り組みました。前週の大湾さんの講演を受け、みんなで差別や偏見のない社会を築いていこうという意識が芽生えていたように思います。またNHKのTV番組「その時歴史は動いた」で放送された「人間は尊敬すべきものだ」を視聴し、西光万吉が果敢に部落差別と闘う姿から、いかに部落差別が非科学的で不合理な偏見に基づくものであるかを理解することができました。さらに2年生は夏休み、ホームルーム運営委員を中心に人権研究所を訪れ、そこでの学習の成果を授業で発表してもらいました。実際にクラスメイトが現地で体験したり、講話で学んだりしたことを伝えてもらうことで同和問題に限らず、あらゆる差別や偏見に対しても正しい知識と認識で立ち向かう心構えが必要であることを学ぶことができました。

《生徒の感想より》 ▲人に同情することは悪いことではないと思っていたが、間違いだった。自分の中に人を見下すような考え方があったことにショックを受けた。これからは互いを尊敬し合えるような人になりたい。▲差別とは、差別を受けて苦しむ人々の問題ではなく、差別をする人や見て見ぬふりをする人々の問題であることを今回の授業で学びました。▲善意でやっていると思い行動していても、実は相手を差別してしまっている場合があると思う。納得するまで話し合い、お互いの差別心を見直し改善していけるようにしたい。

★ 3年生LHR 「幸せな生き方を求めて ～結婚差別解消のために～」★

3年生では、結婚差別をどのように解消していくかについて学習しました。夏休みにHR委員が結婚差別聞き取り学習会に参加し、差別解消に取り組む運動に携わっている方から部落差別や結婚差別の現状についてお聞きしました。そしてHR委員が学習会に参加して学んだことや感じたことをLHRの中で発表し、成果をクラスで共有しました。また被差別部落出身の若い姉妹が結婚や仕事を行う中で考えたことを語る講演のビデオもあわせて視聴し、部落差別の問題とどのように向き合うべきか、考えました。

《生徒の感想より》 ▼私も初めは同和問題を知らない人が増えているので、それを学ぶことで反対に差別する人が増えてしまうのではないかと、思っていました。でも、それは正しい知識を学んでいないからで、これから私たちが正しい知識を身につけ、周りに教えることが大切だと思いました。▼悪意がなくても、自分でも気づかないうちに差別をしてしまっていることもありえるので、行動や発言をする際に必ず自分を客観視できるようにし、いろいろな情報の中から正しい情報を見分けていけるようになっていこうと思いました。

(お願い) お読みいただいて感じたことや人権について考えることなどについて、別紙にお書きいただけたらと思います。今月予定されている三者懇談の際にお持ちいただきますよう、よろしくお願ひします。